

第4回産業部会・労働部会での検討状況

＜第4回産業部会：令和2年11月30日＞

項目	委員意見
総論	○ 計画の目標の達成に向けて、迅速かつ確実な実行をお願いしたい。
	○ ICT の活用により、対面よりも効果的で効率的なコミュニケーションを図ることもできる。今までが良かったという思い込みを捨てて、計画を実行していくことが重要。
	○ 計画の実行力を高めていくことが重要であり、企業や個人に届くように、計画自体をマーケティングしていくことが大切。デザインやロゴなどの工夫のほか、県内に限らず、他の都市の方々を巻き込み、取り込んでいく姿勢も大切。また、計画の名称にサブタイトルをつけてはどうか。
	○ 県内の大学や専門学校を卒業した若者の受け皿となる、働きがいを持てる企業や、若くても活躍や自己成長ができる業種や職種を生み出すことが必要であり、そうしたことを目指す KPI があっても良いのではないかと。
緊急対策	○ 新たな感染の波が発生しても、経済活動レベルを極力落とさずに、感染拡大防止と経済活動の両立ができる環境の整備をお願いしたい。
	○ 新型コロナの緊急対策として、様々な需要喚起策等を実施していただいているが、商店街の活性化のために、引き続き支援をお願いしたい。
	○ 東京一極集中の是正や地域の活力向上に、産学行政の連携で取り組んでいくことが重要。東京の受け皿となるためには、職種や業種、産業構造の多様性が必要。
柱1	○ 計画案には、自動車産業の中小部品サプライヤーの新事業展開を促進することが記載されているが、中核サプライヤーに成長することや寄与することを期待したい。
	○ 学生起業家が企業勤めを経て再度起業したり、大企業の社員の副業が事業になったり、起業のルートの多様化に伴い、支援の在り方も変わっていく中で、支援がなくても起業できる人に続く、2人目以降が生まれる仕組みを意識するとよい。
柱2	○ 中小企業組合の新商品開発、販路拡大は、組合員企業の発展のみならず、地域資源の活用等に繋がるため、引き続きの支援をお願いしたい。
柱3	○ 愛知県は、中部圏のハブという機能があるので、県を跨ぐ移動や、県同士の送客、誘客に関してリーダーシップを発揮しながら、感染症対策と両立するような形で、中部の観光事業の振興、維持に力を注いでいただきたい。
	○ 観光について、来られない人にも魅力を伝えていけるよう、新たなテクノロジー・サービスを取り入れていく必要がある
基盤	○ 新型コロナ対応において、オンラインによる中小企業支援のためのネット環境の整備が他県と比べて遅れているという課題があった。今後、問題が発生した際には、その対応策について、積極的に県にご相談し、対応を進めていきたい。
	○ 県では、スタートアップの推進に力を入れているが、スタートアップ以外の創業支援についても、他の支援機関と連携して支援していきたい。
	○ 新型コロナへの対応に加え、働き方改革関連法案への対応や、事業承継対策、自然災害への対応等、従来からの経営課題に対しても、引き続き、商工会、商工会議所等の支援機関と連携し、積極的に支援してまいりたい。
先導	○ GDP の基準改定で、シェアリングエコノミー等、デジタル化により需要の増加が見込まれる業種が反映されるようになってきている。県全体で積極的に時代を先取りし、ICT 利活用を一層進めていく必要がある。
	○ 今後、IT への対応力は、一企業だけではなく、地域経済の競争力に影響するため、中小企業に対して、幅広く IT 活用が浸透するような後押しをお願いしたい。
	○ サービス産業や行政等の間接業務を担うホワイトカラーや、ミドル・シニア層等のデジタル力の底上げが非常に大きな課題。

＜第4回労働部会：令和2年11月19日＞

項目	委員意見
総論	○ 社会の変化に応じて、計画内容を適時適切に見直していくことが極めて重要。
	○ 今後、本計画の中身や具体的な取組を、必要な時に必要な情報を得ることができるような仕方で周知していただきたい。
	○ 多様な人材がその能力を遺憾なく発揮できる愛知県にしなければならないという基本的な考え方は、計画期間内で変わらないと思う。
	○ 誰もが生きがいや働きがいをもって活躍できる環境づくりに取り組むために、本計画の中身を広く周知し、フォローアップ会議等で、小さな声を一つ一つ拾っていただくことで、働く人の向こうにある暮らしについても考えながら支援していただければありがたい。
	○ デジタル化をさらに加速させ、産業間の連携を今まで以上に構築し、セーフティネットをしっかりとさせながら、中部圏の産業をよりよくしていく必要がある。
	○ 国や県、関係団体の産業労働施策には、類似したものがあるため、各機関が相互に連携してより大きな効果を出すことが重要。
	○ 数値目標について、全国シェアを目標値にすることは、経済のパイが拡大している成長局面では非常に意欲的なものとなるが、後退局面では、成り行きでシェアが増加することもあり得るので、実数等でも目標管理をしていくことが必要。
緊急対策	○ 直近の有効求人倍率は、各企業が雇用調整助成金等を活用し、懸命に雇用維持に努めていることで少し下げ止まりの気配を見せ始めている。しかし、現在、第3波が来たと言われているため、引き続き注視をしなければいけない。
柱5	○ 多様な人材の活躍のためには、職場実習を通じて、様々な会社や業種を経験し、就職先を決めていくことが必要だと思うので、新型コロナが収まった後にはこうした支援も行っていたいただきたい。
	○ 新型コロナで非常に厳しい局面だが、若者の採用を継続し、景気が上向いてきたときに備えることが重要。
	○ 「あいち労働総合支援フロア」の記載内容が、「ヤング・ジョブ・あいち」と比べて若干少なく感じるため、同フロアの取組を少し加筆いただきたい。
	○ 購買決定権のある女性が働きやすく、稼ぐことができるようになれば、消費活動も活発になるので、女性が経済活動に積極的に参加できる愛知になっていくと思う。
	○ With コロナ・ポストコロナにおいては、失業なき労働移動を円滑に進めていく取組や後押しが必要であるため、本計画にもこの内容を盛り込めるとよい。
柱6	○ 様々な機会を捉え、技能五輪での本県選手団の活躍を発信していただきたい。
	○ 「住宅の敷地面積」、「通勤時間」、「人口密度」等の指標は、新型コロナの影響を受け、さらに重要になっているため、愛知が居住地・就業地として選ばれる地域となるためのPR材料として上手く活用すれば、愛知に一層人が集まってくると思う。
基盤	○ 今後、中小・小規模企業が一斉にデジタル化への対応に踏み切るときが来ると思うが、支援事業については、予算面等で、小規模企業ほど手厚くしていただきたい。
	○ あいち産業振興機構は、もっとうまくPRすれば、さらに活用が進むと思う。
	○ 中小企業が若者になかなか理解されておらず、安定志向、大企業志向の傾向が強いと感じる。
先導	○ より多くの人々がデジタル技術を活用できるようにすることが、今後、多様な人材が活躍できる愛知県を目指すにあたって重要。
	○ テレワークの推進を始め、多様で柔軟な働き方の取組が常に情報発信できるよう、心掛けていただきたい。